

# 「2019年度気候変動への適応策に関する調査研究」報告書 概要

## 研究会 ～モデル試行を通じた体験・理解

2019年度の研究会（全5回）では、グループワーク活動やモデル自治体による試行（モデル試行）、アドバイザーからの指導を通じ、成果・課題の共有を図った。また、他市区町村に展開可能なモデルプログラムの作成を行った。

モデル試行については、参加自治体が主体的に検討し、シミュレーションを実践する機会として企画・実施した。



グループワークの様子

### ●モデル試行の2つのメニュー

メニュー	A「庁内周知と既存施策把握の共同実施」	B「住民等への啓発の共同実施」
概要	地域適応計画の策定に向け、適応につながる既存施策を把握する庁内照会調査を実施。職員向け講習会により理解を深めた。	地域住民等への適応策の普及に向け、啓発資料を研究・作成。住民・NPO向け講座の企画・試行を通じ啓発手法を検討した。
モデル自治体	北区、昭島市	墨田区・足立区

### 第2回研究会【2019年7月17日】 グループワーク「モデル自治体での試行に向けた検討」

（支援内容）モデル自治体による試行の準備

### 第3回研究会【2019年8月～11月】

#### モデル試行への参加

- メニューA 職員講習会…北区：8月26日（月）、昭島市：9月20日（金）
- メニューB 住民啓発イベント…墨田区・足立区共催：11月9日（土）

（支援内容）モデル自治体による試行結果のまとめ

### 第4回研究会【2019年12月5日】

#### グループワーク「モデル自治体での試行結果を題材とした検討」

- モデル試行の成果と課題
- 他自治体への展開、モデルプログラムの可能性

（支援内容）モデルプログラム案の作成

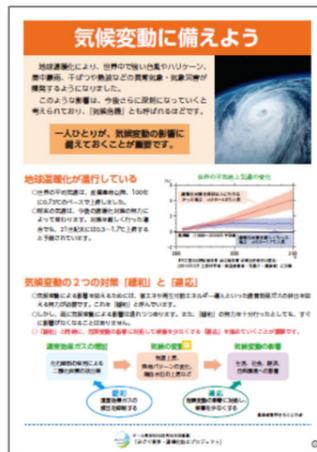
### 第5回研究会【2020年1月29日】

#### グループワーク「モデルプログラムについて」

- アドバイザーからの助言「基礎自治体が地域での適応策の推進にあたり取り組むべきこと」
- 各班でモデルプログラム案について話し合い、発表

（支援内容）モデルプログラムの作成

### ●モデル試行の進め方・経過



### ●モデル試行の成果物（自治体適応モデルプログラム、啓発資料） ⇒P169～P220

## 研究会 ～専門家による情報提供

研究会の各回において、専門家から気候変動適応に関する情報提供、解説を受けた。

### ●気候変動適応法と基礎自治体の役割（研究会〔第1回〕）

環境省関東地方環境事務所環境対策課 地域適応推進専門官 川原博満氏

### ●東京の市区町村は気候変動リスクにどう向き合うべきか（研究会〔第2回〕）

国立研究開発法人国立環境研究所 社会環境システム研究センター 広域影響・対策モデル研究室 室長 高橋潔氏

## 見学会 ～地域特性に応じた適応策を知る・学ぶ

地域特性に応じた適応策について学ぶため、防災や都市整備などまちづくりに関わる部署からの参加も交え、フィールドワークやワークショップなどを織り交ぜた見学会を開催した。

### ●第1回「雨水利用、浸水被害対策」墨田区内・台東区内（2019年9月）

墨田区内の雨水利用の取組事例について、普及に取り組んできたNPOから案内・解説を受け、適応策としての位置付けを考える意見交換を行った。また、東京都下水道局の蔵前ポンプ所で、雨水が排水される仕組みを見学した。さらに、浸水被害予測システムの開発に取り組む研究者から研究事例について紹介いただいた。

＜見学会のポイント（抜粋）＞

- ・ 墨田区では、海抜の低い土地のため地下水位が高く雨水が地下にしみ込みにくい地形から、雨水の流出抑制や一時貯留のために、各住宅等で雨水タンクなどに雨水を貯留し、庭の水やりに使うといった取組が行われている。
- ・ 雨水利用の取組は、水害・浸水被害の増加に備える適応策としても機能する。適応策を進めるには、地域特性を理解している住民をいかに巻き込んでいくかが重要であり、墨田区での雨水活用の取組事例が参考になる。



公園での雨水利用の事例見学



ポンプ場での見学

### ●第2回「グリーンインフラを活用した気候変動への適応」世田谷区内（2019年11月）

生態系ネットワークの形成に配慮し緑化等を行った民間再開発事例「二子玉川ライズ」と、雨水貯留浸透対策を行った世田谷区立二子玉川公園を見学した。また、湧水や樹林地による豊かな自然環境が残る国分寺崖線を見学した。さらに、グリーンインフラや適応策の普及に取り組んでいる研究者の解説を聞き、基礎自治体の役割や可能性などを考える意見交換を行った。

＜見学会のポイント（抜粋）＞

- ・ グリーンインフラは、社会資本整備や土地利用などのハード・ソフト両面において、自然が有する多様な機能（生物の生息場所の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制など）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるものとされている。
- ・ グリーンインフラの考え方は、“自然の力を賢く使う”と捉えるとわかりやすい。世田谷区で豪雨対策を切り口にグリーンインフラを進めたように、地域の多様な課題に対して横串を刺す、地域戦略とも捉えることができる。自治体ごとに切り口は異なるので、まずは切り口を決めて戦略を立てることが重要である。



二子玉川ライズでの見学



意見交換

※上記の他、各種調査の実施（東京における気候変動リスクの整理を含む）、事務局による事例視察、個別相談会の開催を実施した。